

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173300027		
法人名	有限会社 しましまハウス		
事業所名	しましまハウス寺林		
所在地	岐阜県飛騨市神岡町寺林1246番地		
自己評価作成日	平成26年7月30日	評価結果市町村受理日	平成26年10月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2173300027-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaiyokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2173300027-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年8月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然に恵まれた環境にあり、四季折おりの風景に親しみ、伸び伸びとした生活を心がけています。入居年数が10年という長い方もみえ、それぞれのレベルが低下していく中、本人に合った個別のサービスを心がけようと、個人個人の趣味や嗜好を毎日の語らいの中から職員が見出し、情報を共有出来るよう心がけています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の所在地は、冬が長く雪も多い。過疎の集落ではあるが、豊かな自然に恵まれている。現在、女性9名の利用者で、馴染みのある風景に親しみながら、利用者同士が互いに思い合い、和気あいあいと暮らしている。近隣の人たちとも親密であり、除雪の手伝いや野菜などの差し入れは日常にある。管理者・職員は、利用者の生きがいがづくりに努め、テーブルを囲んでの楽しい会話を実践している。昨年、初めて職員に採用された、青年男性が、注目の存在になっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である、年長いてもやりたい事が出来るよう、地域密着の意味を考えながら、日々のミーティング等で利用者の希望や要望を職員間で情報を共有し、利用者へのサービスに努めている。	利用者が培った、生き立ちや思い出を大切にしたい暮らしを実践している。地域密着型サービスの意義を全職員で共有し、個々の能力を引き出しながら、残された余生を楽しく過ごせるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事の時は、地域の方に声をかけ、参加を呼び掛けている。近隣の方も、花や野菜を届けて下さったり、除雪に来て下さったりと、気にかけて下さる。ボランティアも定期的に訪問してくれる。	自治会とは、会員に準じた付き合いをしている。住民からは、除雪を手伝ってもらったり、花や野菜の差し入れは日常にある。地域の各種芸能ボランティアが頻りに訪れ、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣には高齢者世帯が多いので、日常的に訪問しやすい雰囲気作りに心がけている。職場体験の中・高生に、認知症の方との関わりを体験して貰っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、利用者の家族・民生委員・地域の方に出席して貰い、施設の実情や問題点を話し、意見を頂いている。それをミーティングで報告し、サービスの向上に活かしている。	前年度より、会議回数の改正により、3ヶ月ごとに開催をしている。運営の実情を報告して意見を交わし、特に、行政担当者や民生委員からは、貴重な情報を提供してもらい、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席時に、日頃のサービスの取り組みや事業所の問題点等伝え、助言を貰っている。	市主催の事業者会議や研修会、ケアマネジャー会議へ出席し、最新情報を把握している。また、地域の高齢者や独居者の現状や課題等を話し合い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はせず、職員が見守る中、自由に屋外に出入りして貰っている。	拘束をしないケアを基本に取り組んでいる。安全上や他者に弊害がある場合は、家族の同意を得ている。その場合でも、限定的であり、代替策を工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等、事あるごとに再認識し、虐待に繋がらない様、職員の意識を周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	内部研修時に資料の読み合わせをするなどし、勉強会をしている。また、個々に必要性が生じた時には再度職員間で話し合い、関係者に支援できるよう心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に施設内を見学して貰い、グループホームとはどういう所かをよく知ってもらう様にしている。契約締結の際は、家族にケアマネージャーと管理者が時間をかけ説明をし、納得してから契約をして貰う様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の出席時や来所時に、家族の意見や要望を聞く様にしている。利用者には各担当職員を決め、日々の会話や行動の中から要望を見出し、日々の生活や行事に反映している。	家族との面談や電話で、意見や要望を確認している。また、担当職員が、暮らしの様子を手紙で報告し、相互理解に努めている。家族からは、好意的な意見が多いが、要望等には、速やかに対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月1回の全体ミーティングで自由な意見や要望を出して貰い、管理者が代表者に伝えることにより反映させているが、職員が直接代表者と意見交換する機会は少ない。	月例会議で、運営全般を話し合っている。ケアの気づきや改善、避難訓練の方法、職員の勤務調整、処遇改善などを提案し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務に、職員の休み希望を出来るだけ叶えるようにし、勤務の継続に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望者には外部の研修に参加出来る機会を確保している。研修を受けた職員は、その内容を内部研修で他の職員に報告している。又、資格取得条件を満たした職員には、積極的に資格取得を薦め、協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会やケアマネ会議に出席し、そこで得た情報を活かし、サービスの向上に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談を必ず行い、本人の要望や困っている事をよく聞き、本人のみならず、家族からも聞きとるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談で、家族が困っている事や不安な事はどんな事をじっくり聞き、家族が気楽に相談できる様な関係作りにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が「今最も必要としている支援は何か？」を相談時に見極め出来るよう努めている。早急な対応が必要な場合には、他の事業所のサービスを紹介する等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションや食事・掃除等一緒に行ない、日中はほとんど一緒に行動している。その日常の中から本人の想いを聞き出し、話題作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設からの毎月のお便りに加え、各担当者が本人の近況を細かに知らせる手紙を出し、情報の共有に努めている。家族の来訪時には、家族と本人がゆっくり話が出来る場を作るなど対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす友人にお願いしてボランティアに来て頂いたり、近所の方が気楽に立ち寄れる場所づくりに努めている。行事等には家族へ連絡し、参加をお願いしている。	関係者の高齢化や遠隔地の人もあり、訪れる人が減っている。ボランティアの中には、知り合いが多く、訪れるのを楽しみにしている。時には、馴染みの名所や道の駅、お城などへ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の会話の中から利用者同士の関係を職員が把握し、席の配置を考えたり、職員が調整役となって会話を楽しむ様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご家族がお菓子を持参して遊びに来て下さる事も度々あり、気軽に立ち寄り相談できる場作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、それぞれの思いや希望を把握し、職員間で情報を共有している。個々が楽しみややりがいを持って暮らしているよう支援している。	日々の言動から、思いや意向を把握している。また、個々の生活歴も職員間で共有し、経験や得意なことを活かしながら、生きがいのある暮らし方につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族からこれまでの生活の情報を得、職員間で共有している。部屋には本人が使用していた馴染の物を置く事により、落ち着いて生活して頂き、そこから会話のきっかけをつかむ様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝・昼のミーティング時、一人一人の様子を話し合い、生活のリズムを把握するようにしている。変化は細かく記録し、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人担当を付け、本人の希望する事等を細かく聞く様にしている。その内容を毎月の全体ミーティングや小ミーティングで意見交換し、プランの支援内容に反映している。	本人・家族の意向を取り入れ、職員会議で、気づきやアイデアを出し合い、介護計画を作成している。利用者が、日々不安なく、楽しい生活が送れるように反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々の変化や気づいた事などは、記録と申し送り等で職員間で情報を共有し、日々のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々な研修会や講習会に参加し、情報を入力し取り入れている。又、日々変化する利用者の状態に対し、柔軟なサービスになるよう、毎日のミーティングで職員間で意見交換するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者がより豊かに生活を楽しめるようボランティアや職場体験の学生の訪問を受け入れたり、運営推進会議に民生委員や包括支援センターの職員に参加していただき、情報や協力を得るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の馴染みのある地元の病院による月1回の往診を受けている。急変があった時などは、病院内の連携室の看護師さんも相談に乗って下さり、早い対応が出来るようにしている。	市民病院が、入居前からのかかりつけ医院である。同医院の協力医による、月に1回の往診があり、職員の看護師2名と連携を取りながら、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場に看護師が2名在籍しているので、急な対応等指示できる体制になっている。かかりつけ医の訪問看護ステーションとも関係を密にし、色々相談しやすい関係づくりをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院する際は、施設での情報を医療機関へ提供し、その後の状態については病院や家族と連絡を取り、回復状況を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応についての説明をしている。重度化した場合は、ドクターも交えて事業所と家族との話し合いの場をもち、事業所で出来る事を十分に説明している。	重度化のため、医療行為の常態化や共同生活ができない場合を、退去の方針としている。協力医からは、自然な看取りは「できるのではないか」との助言があり、将来的に可能性を模索している。	現段階では、看取りはしない方針であるが、取り組みの一環として、また、将来も見据えて、安らかな旅立ち支援のあり方についての学習に期待をしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にお願いしての訓練や、自主訓練により、定期的に勉強会を行い、その時々反省点を見出し、次につなげるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署にお願いし、定期的に災害の為に訓練をしている。地域住民の方へは災害時には協力頂けるようお願いし、了解を頂いている。	消防署の指導の下、火災訓練を想定した定期的訓練を行っている。訓練には、住民が参加し、備蓄も確保をしている。防災の日には、地域の合同訓練への参加を決めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に内部研修等勉強会を行い、一人ひとりの人格を損ねないような声かけや対応をするようにしている。特に排泄に関しての声かけには注意するよう職員全員で気を付けている。	排泄時の声かけや入浴時の異性介助には、羞恥心に配慮をしている。常に、プライドを傷つけないように心がけ、温かみのある態度で、安心感を与えるように接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者の希望や思いは、各担当者や入浴介助者が入浴時に注意深く聞き取り、その情報を職員全員が共有するように心がけている。月1～2回1モーニングを行い、メニューより自己決定出来る様な場をつくっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはほぼ決まっているが、その日の本人の体調や気分により、個別の対応に心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3ヶ月に1度、地元美容師さんに来て頂き、希望を聞きながらカットしてもらっている。毎日の着替えは基本的に本人が決めるが、職員が見守り支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒にテーブルを囲み、会話しながら食事を楽しんでいる。山菜の処理・おはぎ作り・野菜の下準備・後片付け等役割分担し、本人の得意な事をやっている。	季節の野菜を食材にして、下準備や片付け等を、進んで担っている。職員も一緒に同じものを食べ、楽しい会話が弾んでいる。ゆっくり時間をかけ、最後に皆で、ご馳走様を合掌している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量を把握している。歯のない方や飲み込みに支障がある方には、キザミ食やミキサー食により食べやすいよう工夫している。夏は声かけにより、水分を多くとってもらうようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声かけをしている。入れ歯の方は、それ以外にも定期的にポリドントによるケアをしている。			

岐阜県 しましまハウス寺林

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンについて職員が情報を共有し、トイレでの排泄に繋げている。パットやおむつに関しても、ミーティングで意見を出し合い、本人に一番合った物を選ぶようにしている。	一人ひとりのパターンに応じ、トイレでの排泄が習慣となるように支援をしている。おむつ用品は、個々に合ったものを選択し、快適な排泄につなげ、清拭は随時行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、主治医に相談し、下剤や整腸剤を処方して貰っているが、それだけに頼らず、毎日、体操や歩け歩け運動をしたり、水分摂取を促すなど予防・改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や介助する職員(男性職員の拒否)などの希望は出来るだけ聞き入れるようにしている。入浴時は一対一になるため、色々会話をしながら楽しんで入浴してもらえるように努めている。	週に2回の入浴日があり、回数や順番には、柔軟に応じている。その日の体調により、清拭も行っている。それぞれのペースに合わせて、ゆったりと入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠って頂く為に、定期的にシーツ・パジャマの交換等、寝具の清潔を保ち、室温の管理もおこなっている。日中はなるべくレクリエーションや体操などで身体を動かして貰うようにし、良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診の前後や薬の変更があった時は、看護師が全職員に説明をして理解するようにし、誤薬や飲み忘れを防ぐ取り組みをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人がどんな事が得意であるかを見極め、出来る仕事をみつけ、掃除・茶碗拭き・畑仕事など、役割作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	集団行動が困難になった為、個々その日の状態で、季節や気候にあわせて、花見や外食・買い物・散歩等、取り入れている。	事業所の周辺を散歩したり、庭のベンチでの外気浴は日常である。季節の花見や買い物、外食等への外出は、減少傾向にあり、検討課題である。	外出は、生活の一部となるよう、個別の能力に応じた、計画的な外出支援に期待をしたい。



岐阜県 しましまハウス寺林

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたいという希望者には、家族の理解を得てお金を持って貰っている。外出時には自分で支払いをして貰う様お金を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける時や受ける時は、子機で自室で話して貰うなど、プライバシーに配慮している。年賀状や暑中見舞いはレクリエーションに取り入れたりして、書きやすい場作りに努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品や行事の写真・季節の花などを飾り、季節の変化を楽しんでもらえるようにしている。又、ホールにはソファを各所に配し、いつでも誰でも座って語れるようにしている。	共用の場は、居間と調理場が対面し、食堂をかねている。要所に、手づくりの折り紙作品や季節の花、習字、日めくりカレンダーなどを飾っている。寛げる畳のコーナーやソファもあり、居心地のよい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール各所にソファを置き、気の合った利用者と自由に座って話ができる場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時家族に使い慣れたタンスや布団・写真などを持って来てもらうようにしている。部屋には自分で作ったカレンダーや家族の写真を飾り、居心地良く過ごせるよう配慮している。	居室には、馴染みの筆筒や家族の写真、仏壇、手づくり作品、目覚まし時計、テレビなどを持ち込んでいる。それらを、ほどよく配置をし、安心して過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行困難な利用者の為に、部屋や廊下には、危険なものを置かないようにしている。又、トイレや自室の場所がわからない利用者のために、ローカにテープで道を示すなどの配慮をしている。		